

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「遠慮」とは・・・？「遠慮」の対義語って？・・・～

遠慮の対義語って？・・・「近慮」？「短慮」？
「慮」という漢は「慮（おもんばか）る」と読みますね。
さて・・・『論語』の中にこんな言葉があるそうです。

「人、遠慮無ければ、必ず近憂有り」

どういう意味なのでしょう。



『論語』の名言の中で、混迷を深める現代において、最も適切な忠告のように思う一つです。
目の前で生じる問題ばかりに注意を向け一喜一憂していると、前もって打つべき準備に手拔かりが生じます。すると、ますます厄介な問題、つまり「近憂」が多くなってしまいます。

「遠慮」とは、遠くの近未来までも見通した、熟考・熟慮した準備のことで、先行きの目標とその達成のために行うべき努力目標のことです。

生じる状況に流されることなく、やるべき課題をしっかりと行う毎日を送ることで、実力向上という階段を一段一段登っているという充実感を持つことができます。すると、生きる姿勢が意欲的に変わり「勢い」が生じます。

多少の問題も「他を制圧する力」であるこの「勢い」が解決してくれるようになります。

この「人無遠慮、必有近憂」という八文字の短文でありながら、人生の欠くべからざる要点ともいえるべき教えが、鮮やかに明示されています。

私たちは、普段この「遠慮」という言葉は、他人に対して発言や行動を控えめにするという意味で使います。この意味は何処からきたのでしょうか。一説には・・・

江戸時代の武士や僧侶に科せられた刑罰の一つであるといわれています。「門を閉ざし、くぐり戸は引き寄せておき、夜目立たないように出入りするのさしつかえない。」といわれ、最も軽い刑として「遠慮」というものがありました。

他人との交流や街中への出入りを一時的に控えるということです。遠慮しながらの生活ということを中心とし、「傍若無人」、傍らに人がいないかのような自分勝手な行動を戒めているわけです。

~~~~~  
企業が利益や自社の利益だけを重視した結果、起こってしまった残念な事件がよく報道されていますね。最近、企業経営の分野で「パーパス経営」という言葉がよく聞かれます。

これは「志を持った経営」これこそが重要として、企業の原点回帰を訴えています。社会と人間の為になどどのような貢献をする会社なのか、明確な到達点を明示して経営をすべしと説いているのです。

「致知」6月号 四書五経の名言に学ぶ 東洋思想家 田口 佳史

この名言を読むと、すでに孔子は二千五百年前にこのような主張をしているということに驚きますね。ということは・・・この世で生きる人間や人間集団（社会）が忘れてはいけない原理原則であるともいえるんじゃないでしょうか？

みなさんはどう思いますか？

「人、遠慮無ければ、必ず近憂有り」・・・頭に・・・心に・・・留めておきませんか。